



2024年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2024年2月2日

上場会社名 株式会社エフ・シー・シー 上場取引所 東
コード番号 7296 URL <https://www.fcc-net.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 斎藤 善敬
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員事業管理統括 (氏名) 大石 安孝 TEL 053-523-2400
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	177,508	9.3	11,944	73.6	14,736	76.5	10,648	85.8	10,434	88.4	17,739	93.1
2023年3月期第3四半期	162,355	32.0	6,879	△13.4	8,350	△5.3	5,732	△3.7	5,538	△5.3	9,185	△3.4

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	209.78	—
2023年3月期第3四半期	111.41	—

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	227,883	175,562	174,328	76.5	3,504.39
2023年3月期	210,626	162,124	160,055	76.0	3,218.63

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	26.00	—	30.00	56.00
2024年3月期	—	30.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	234,000	6.9	14,000	17.6	17,000	24.6	11,200	14.3	11,000	15.0	221.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	52,644,030株	2023年3月期	52,644,030株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	2,898,207株	2023年3月期	2,916,364株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	49,738,583株	2023年3月期3Q	49,717,462株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	4
(2) 要約四半期連結損益計算書	6
(3) 要約四半期連結包括利益計算書	7
(4) 要約四半期連結持分変動計算書	8
(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(セグメント情報)	11
(引当金及び偶発負債)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における経済状況は、物価上昇や金融資本市場の変動もあり、先行き不透明な状況で推移しました。自動車業界では、原材料価格の高騰影響が継続しましたが、半導体の供給不足による減産影響は緩和し、生産は回復基調となりました。このような状況の中、当第3四半期連結累計期間の業績は、インドネシアやインド、米国の販売が増加したことや円安の影響もあり、売上収益は177,508百万円（前年同期比9.3%増）となりました。営業利益は、原材料価格の高騰影響があったものの、増収効果や円安の影響もあり11,944百万円（前年同期比73.6%増）となりました。税引前四半期利益は14,736百万円（前年同期比76.5%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は10,434百万円（前年同期比88.4%増）となりました。

セグメント別の状況は、次のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「二輪車用クラッチ」及び「四輪車用クラッチ」の2区分から、「二輪事業」、「四輪事業」、「非モビリティ事業」の3区分に変更しております。前第3四半期連結累計期間の数値は、上記セグメント変更後の報告セグメントの区分に組み替えた数値で比較しております。

(二輪事業)

インドネシアやインドの二輪車用クラッチの販売が増加したことや円安の影響もあり、売上収益は79,254百万円（前年同期比2.4%増）となりました。営業利益は、原材料価格の高騰影響もあり7,200百万円（前年同期比6.1%減）となりました。

(四輪事業)

米国の四輪車用クラッチの販売が増加したことや円安の影響もあり、売上収益は98,242百万円（前年同期比15.6%増）、営業利益は6,755百万円（前年同期比634.1%増）となりました。

(非モビリティ事業)

売上収益は11百万円（前年同期比27.3%増）、営業損益は2,010百万円の営業損失（前年同期は1,709百万円の営業損失）となりました。

地域別の状況は、次のとおりであります。

(日本)

売上収益は19,704百万円（前年同期比3.2%増）、営業損益は1,476百万円の営業損失（前年同期は438百万円の営業損失）となりました。

(米国)

四輪車用クラッチの販売が増加したことや円安の影響もあり、売上収益は73,452百万円（前年同期比12.8%増）、営業利益は6,106百万円（前年同期比255.5%増）となりました。

(アジア)

インドネシアやインドの二輪車用クラッチの販売が増加したことや円安の影響もあり、売上収益は76,657百万円（前年同期比6.4%増）、営業利益は6,074百万円（前年同期比22.2%増）となりました。

(その他)

売上収益は7,694百万円（前年同期比26.2%増）、営業利益は1,067百万円（前年同期比545.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び資本の状況

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は149,622百万円となり、前連結会計年度末に比べ17,433百万円増加しました。これは主に営業債権及びその他の債権が3,511百万円減少したものの、現金及び現金同等物が17,812百万円増加したことによるものであります。

(非流動資産)

当第3四半期連結会計期間末の非流動資産は78,260百万円となり、前連結会計年度末に比べ176百万円減少しました。これは主にその他の金融資産が804百万円、繰延税金資産が186百万円増加したものの、有形固定資産が765百万円、のれん及び無形資産が339百万円減少したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は41,605百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,303百万円増加しました。これは主にその他の流動負債が650百万円減少したものの、引当金が2,791百万円、未払法人所得税が538百万円増加したことによるものであります。

(非流動負債)

当第3四半期連結会計期間末の非流動負債は10,714百万円となり、前連結会計年度末に比べ515百万円増加しました。これは主に退職給付に係る負債が134百万円減少したものの、繰延税金負債が521百万円増加したことによるものであります。

(資本)

当第3四半期連結会計期間末の資本は175,562百万円となり、前連結会計年度末に比べ13,438百万円増加しました。これは主に利益剰余金が7,300百万円、その他の資本の構成要素が6,943百万円増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は71,551百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は26,471百万円となりました。主な増加の要因は、税引前四半期利益14,736百万円、減価償却費及び償却費9,807百万円、営業債権及びその他の債権の減少額5,522百万円、引当金の増加額2,791百万円によるものであります。主な減少の要因は、金融収益及び金融費用2,346百万円、法人所得税の支払額5,435百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は5,908百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出6,100百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は4,690百万円となりました。これは主に非支配持分株主からの子会社持分取得による支出1,292百万円、配当金の支払額2,981百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年11月2日の「2024年3月期 第2四半期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想値に変更はありません。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	53,738	71,551
営業債権及びその他の債権	38,739	35,227
その他の金融資産	3,902	5,120
棚卸資産	32,715	32,758
その他の流動資産	3,091	4,964
流動資産合計	132,189	149,622
非流動資産		
有形固定資産	57,483	56,718
のれん及び無形資産	3,447	3,107
持分法で会計処理されている投資	161	133
その他の金融資産	14,395	15,200
繰延税金資産	2,554	2,741
その他の非流動資産	394	358
非流動資産合計	78,437	78,260
資産合計	210,626	227,883

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	18,204	18,681
借入金	6,100	6,100
その他の金融負債	313	459
未払法人所得税	2,019	2,558
引当金	3,478	6,269
その他の流動負債	8,187	7,536
流動負債合計	38,302	41,605
非流動負債		
その他の金融負債	1,096	1,180
退職給付に係る負債	1,527	1,393
引当金	14	14
繰延税金負債	7,087	7,608
その他の非流動負債	472	517
非流動負債合計	10,199	10,714
負債合計	48,502	52,320
資本		
資本金	4,175	4,175
利益剰余金	139,639	146,939
自己株式	△4,723	△4,694
その他の資本の構成要素	20,963	27,906
親会社の所有者に帰属する持分合計	160,055	174,328
非支配持分	2,069	1,234
資本合計	162,124	175,562
負債及び資本合計	210,626	227,883

(2) 要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上収益	162,355	177,508
売上原価	△139,558	△146,862
売上総利益	22,796	30,646
販売費及び一般管理費	△16,217	△18,963
その他の収益	445	497
その他の費用	△145	△235
営業利益	6,879	11,944
金融収益	1,506	2,811
金融費用	△27	△16
持分法による投資損益	△8	△2
税引前四半期利益	8,350	14,736
法人所得税費用	△2,618	△4,088
四半期利益	5,732	10,648
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	5,538	10,434
非支配持分	193	214
四半期利益	5,732	10,648
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	111.41	209.78
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	—	—

(3) 要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期利益	5,732	10,648
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
確定給付制度の再測定	326	11
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の公正価値の変動	△461	1,480
計	△134	1,492
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	3,582	5,605
持分法適用会社におけるその他の包括 利益に対する持分	6	△7
計	3,588	5,597
その他の包括利益合計	3,453	7,090
四半期包括利益	9,185	17,739
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	8,936	17,388
非支配持分	248	350
四半期包括利益	9,185	17,739

(4) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

親会社の所有者に帰属する持分

	親会社の所有者に帰属する持分				その他の資本の 構成要素
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	在外営業活動体 の換算差額
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年4月1日時点の残高	4,175	—	132,252	△4,764	10,480
四半期利益	—	—	5,538	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	3,528
四半期包括利益合計	—	—	5,538	—	3,528
自己株式の取得	—	—	—	△0	—
自己株式の処分	—	—	△7	41	—
配当金	—	—	△2,585	—	—
持分変動に伴う増減額	—	—	—	—	—
利益剰余金から 資本剰余金への振替	—	—	—	—	—
その他の資本の構成要素 からの振替	—	—	327	—	—
所有者との取引額合計	—	—	△2,265	41	—
2022年12月31日時点の残高	4,175	—	135,526	△4,723	14,009

親会社の所有者に帰属する持分

その他の資本の構成要素

	その他の資本の構成要素			合計	非支配持分	資本合計
	その他の包括利 益を通じて公正 価値で測定する 金融資産の公正 価値の変動	確定給付制 度の再測定	合計			
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年4月1日時点の残高	4,481	—	14,962	146,625	1,906	148,532
四半期利益	—	—	—	5,538	193	5,732
その他の包括利益	△456	326	3,397	3,397	55	3,453
四半期包括利益合計	△456	326	3,397	8,936	248	9,185
自己株式の取得	—	—	—	△0	—	△0
自己株式の処分	—	—	—	33	—	33
配当金	—	—	—	△2,585	△157	△2,742
持分変動に伴う増減額	—	—	—	—	—	—
利益剰余金から 資本剰余金への振替	—	—	—	—	—	—
その他の資本の構成要素 からの振替	△1	△326	△327	—	—	—
所有者との取引額合計	△1	△326	△327	△2,551	△157	△2,708
2022年12月31日時点の残高	4,023	—	18,032	153,011	1,998	155,009

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

親会社の所有者に帰属する持分

	親会社の所有者に帰属する持分				その他の資本の 構成要素
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	在外営業活動体 の換算差額
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年4月1日時点の残高	4,175	—	139,639	△4,723	16,180
四半期利益	—	—	10,434	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	5,475
四半期包括利益合計	—	—	10,434	—	5,475
自己株式の取得	—	—	—	△0	—
自己株式の処分	—	3	—	29	—
配当金	—	—	△2,984	—	—
持分変動に伴う増減額	—	△163	—	—	—
利益剰余金から 資本剰余金への振替	—	160	△160	—	—
その他の資本の構成要素 からの振替	—	—	11	—	—
所有者との取引額合計	—	—	△3,133	29	—
2023年12月31日時点の残高	4,175	—	146,939	△4,694	21,656

親会社の所有者に帰属する持分

その他の資本の構成要素

	その他の資本の構成要素			合計	非支配持分	資本合計
	その他の包括利 益を通じて公正 価値で測定する 金融資産の公正 価値の変動	確定給付制 度の再測定	合計			
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年4月1日時点の残高	4,782	—	20,963	160,055	2,069	162,124
四半期利益	—	—	—	10,434	214	10,648
その他の包括利益	1,468	11	6,954	6,954	135	7,090
四半期包括利益合計	1,468	11	6,954	17,388	350	17,739
自己株式の取得	—	—	—	△0	—	△0
自己株式の処分	—	—	—	32	—	32
配当金	—	—	—	△2,984	△55	△3,039
持分変動に伴う増減額	—	—	—	△163	△1,130	△1,293
利益剰余金から 資本剰余金への振替	—	—	—	—	—	—
その他の資本の構成要素 からの振替	—	△11	△11	—	—	—
所有者との取引額合計	—	△11	△11	△3,115	△1,185	△4,300
2023年12月31日時点の残高	6,250	—	27,906	174,328	1,234	175,562

(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	8,350	14,736
減価償却費及び償却費	10,253	9,807
金融収益及び金融費用	△1,102	△2,346
持分法による投資損益(△は益)	8	2
固定資産除売却損益(△は益)	31	17
棚卸資産の増減額(△は増加)	△2,475	1,663
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	1,026	5,522
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	178	△405
退職給付に係る負債の増減(△は減少)	188	△201
引当金の増減額(△は減少)	1,450	2,791
その他	△640	△1,127
小計	17,267	30,459
利息及び配当金の受取額	733	1,442
利息の支払額	△17	△12
法人所得税の支払額	△4,410	△5,435
法人所得税の還付及び還付加算金の受取額	19	17
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,592	26,471
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△976	△3,525
定期預金の払戻による収入	1,479	4,365
有形固定資産の取得による支出	△6,140	△6,100
有形固定資産の売却による収入	100	90
無形資産の取得による支出	△628	△416
貸付けによる支出	△61	△53
貸付金の回収による収入	85	132
投資の取得による支出	△426	△354
投資の売却及び償還による収入	2	36
その他	△61	△83
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,626	△5,908
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース負債の返済による支出	△352	△361
非支配持分株主からの子会社持分取得による支出	—	△1,292
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△2,583	△2,981
非支配株主への配当金の支払額	△157	△55
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,093	△4,690
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,871	15,872
現金及び現金同等物の期首残高	44,627	53,738
現金及び現金同等物に係る換算差額	671	1,940
現金及び現金同等物の四半期末残高	49,170	71,551

(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社グループは、二輪事業及び四輪事業については、それぞれ二輪事業統括及び四輪事業統括が、非モビリティ事業については、事業戦略統括が国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業を展開しております。したがって、当社グループは、「二輪事業」、「四輪事業」、「非モビリティ事業」の3つを報告セグメントとしております。

「二輪事業」は、オートバイ、スクーター及びA T Vのクラッチ等の生産、EV/CASE領域での新事業の開発等を行っております。「四輪事業」は、マニュアル車及びオートマチック車のクラッチ等を生産、EV/CASE領域での新事業の開発等を行っております。「非モビリティ事業」は主に環境・エネルギー分野での新事業の開発等を行っております。

(セグメント区分の変更)

近年における新しい事業環境の変化に適応するため、当社グループは事業ポートフォリオの転換と経営基盤の強化に取り組んでおります。2023年5月に公表した第12次中期経営計画において、当社グループは経営資源の選択と集中を行い、既存事業であるクラッチ事業の収益力の向上を図りながら新規事業創出の取り組みを進め、モビリティと非モビリティ領域で新たな価値を提供し続ける企業へ転換することを成長戦略として掲げています。

これに伴い、当社グループにおける経営管理上の業績評価・意思決定プロセス等を考慮した結果、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「二輪車用クラッチ」及び「四輪車用クラッチ」の2区分から、「二輪事業」、「四輪事業」、「非モビリティ事業」の3区分に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、上記セグメント変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(2) 報告セグメントの収益及び業績

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

	報告セグメント				連結 百万円
	二輪事業	四輪事業	非モビリティ事業	合計	
	百万円	百万円	百万円	百万円	
売上収益					
外部収益	77,380	84,965	8	162,355	162,355
セグメント間収益	—	—	—	—	—
合計	77,380	84,965	8	162,355	162,355
減価償却費及び償却費	△4,133	△6,021	△98	△10,253	△10,253
その他の損益	△65,578	△78,024	△1,619	△145,222	△145,222
営業利益又は 営業損失(△)	7,668	920	△1,709	6,879	6,879
金融収益					1,506
金融費用					△27
持分法による投資損益					△8
税引前四半期利益					8,350

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

	報告セグメント				連結 百万円
	二輪事業	四輪事業	非モビリティ事業	合計	
	百万円	百万円	百万円	百万円	
売上収益					
外部収益	79,254	98,242	11	177,508	177,508
セグメント間収益	—	—	—	—	—
合計	79,254	98,242	11	177,508	177,508
減価償却費及び償却費	△3,977	△5,728	△100	△9,807	△9,807
その他の損益	△68,077	△85,757	△1,921	△155,756	△155,756
営業利益又は 営業損失(△)	7,200	6,755	△2,010	11,944	11,944
金融収益					2,811
金融費用					△16
持分法による投資損益					△2
税引前四半期利益					14,736

(引当金及び偶発負債)

主な引当金の増減内容は以下のとおりであります。

	製品保証引当金
	百万円
2023年4月1日	3,478
期中増加額	2,791
期中減少額(目的使用)	—
期中減少額(戻入れ)	—
2023年12月31日	<u>6,269</u>
流動	<u>6,269</u>

(注) 製品保証引当金は、当社が米国において特定顧客に納入した一部製品に関連した不具合について、現時点において収集可能な情報、及びその情報が合理的な事実に基づくものであると判断された改修費用を計上しており、「発生件数」の見積りに「1台当たりの改修単価」の見積りを乗じて算出しております。「発生件数」については、当第3四半期において特定顧客より新たに入手した情報等に基づき、現時点での販売店における改修実績件数に加えて、対象製品の総生産数量に一定の仮定及び実績に基づく不具合の発生確率を乗じることにより算出した将来の不具合発生台数の予測を加味することにより見積もっております。「1台当たりの改修単価」については、改修に係る工数の見積りや顧客との負担金額の按分見込み割合等を用いて算出しております。既に引当金を計上しているものを除き、現時点において予想される財務上の影響額について信頼性のある見積りをすることはできません。当該引当金の計算要素のうち、不具合の発生確率や顧客との負担金額の按分見込み割合等については、相対的に不確実性が高いため、予測不能な前提条件の変化等により、実際の発生費用は見積りと異なる可能性があり、引当金の追加計上又は戻入が必要となる可能性があります。